

故郷に感謝！世界で頑張れる多久の後輩も育てたい

天満屋陸上部の武富監督が表敬訪問

北京五輪の女子マラソンに出場する天満屋陸上部の中村友梨香選手を育てた監督・武富豊さんが5月7日、市役所を表敬訪問し、横尾市長らに激励を受けました。

武富監督は、多久市北多久町出身で、2000年のシドニー五輪で山口衛里選手、2004年のアテネ五輪で坂本直子選手を代表に送り出し、ともに入賞。メダル獲得に向けて、3大会連続で出場選手を育成した力量と中村選手の新たな力が期待されています。

「多久を離れて30年以上になるのに、忘れず応援していただき嬉しい。故郷のありがたさが身に沁み、恩返しをしたい。多久の後輩たちを世界で頑張れるような選手に育てるチャンスがあれば嬉しい」などと話されました。



▲帰郷された武富監督（中央）を囲んで、故郷の応援の手を重ねる古賀和夫市議会議長、横尾俊彦市長、野中弘文さん（中学時代の恩師）と吉浦啓一郎体育協会理事長（写真左から）

一発逆転！ 勝利の一走！の熱戦

西溪中学校体育大会

初夏の陽気の中、市内で一番早く西溪中体育大会が5月18日開かれました。

新1年生も入学してから1か月での体育大会でしたが、練習の成果を発揮。「一発逆転！ 勝利の一走！」のスローガンのもと、紅組・青組に分かれ、応援合戦・大縄跳び・綱引き等、熱戦が繰り広げられました。短い練習期間でしたが、一人ひとりが十分に力を出し、中学校生活で思い出に残るものとなりました。

保護者の方も綱引きやフォークダンスに参加。わが子と一緒に楽しい一日を過ごされていました。



▲綱を回す2人と跳ぶみんなの息はピッタリ

みんなで「八十八夜」を歌いながら

中部小児童のお茶摘み体験

5月12日に中部小学校の児童のみなさんが、近くの専称寺の茶畑で、多久町の陣内清春さんの指導を受けて、お茶摘みを行いました。この時期はやわらかい新芽が摘み頃になる、今年の「一番茶」の時期。初夏の日差しに汗をかきながらコンテナ18個分、合計61kgの新茶葉を摘み取りました。今回摘み取った分は、各児童の家庭のほか、地域の老人会、婦人会等にも配って、味わっていただくとのこと。



▲1年生から6年生まで丁寧に茶摘み

